

みんなで作る共生社会

12月3日から9日までは、「障害者週間」です。
障がいがある人もない人も、誰もが生き生きと暮らせるまに
するためには、一人一人が障がいについて正しく理解し、共に
支え合うことが大切です。
そこで今回の特集では、「共生社会」について紹介します。
みんなが暮らしやすい社会をみんなで作るためには、何が必要
なのか、この機会に考えてみませんか。

共生社会とは？

「共生社会」とは、障がいがある、
ないにかかわらず、女の人も男の人も、
お年寄りも若い人も、すべての人が
お互いの人権や尊厳を大切に、支え
合い、誰もが生き生きとした人生を
送ることができる社会のことです。



「障がい」はどこにある？

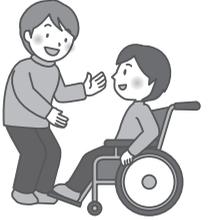
障がい者が、日常生活や社会生活で受ける
さまざまな制限は、心身の機能の障がい
のみに起因するものではなく、社会における
さまざまな障壁(バリア)に相対すること
によって生じるものであり、社会にあるバリア
を取り除くのは社会の責任です。



この考え方を「障がいの社会モデル」といいますが、このことを
すべての人が理解し、自分の考え方に取り入れ、具体的にバリア
を取り除く行動をすることで、社会全体の人々に「心のバリアフリー」
の考え方を広めていく必要があります。

心のバリアフリーの重要性

「心のバリアフリー」とは、さまざまな心身の
特性や考え方を持つすべての人々が、お互いを
理解し、支え合うことを目指す理念です。



これを実現するためには、次の3つのポイント
を意識して、人々が積極的に対話し、一人一人が
バリアを取り除くための行動を続けていくことが
必要です。

①「障がいの社会モデル」を理解する

障がいがある人にとって生きづらい社会になっている原因が、
社会のバリアにあるということについてよく理解しましょう。

②障がいがある人やその家族への差別を行わないようにする

障がいを理由に差別されることなく、すべての障がい者のあらゆる
人権・基本的自由を完全に実現することを確保・促進するべきこと
を定めた「障害者権利条約」の考え方を理解し、障がいがある人
に対する差別を行わないよう徹底していかなければなりません。

③自分とは違う状況にある人とのコミュニケーション力を身に付け、 すべての人が持っている困りごとや痛みを想像し行動する

からだやところに機能の障がいがある人が、どんな困りごとや
痛みがあるのかに「気づく」ことが必要です。障がいはさまざま
であり、それぞれの人が感じているバリアは違います。障がいについて
よく理解し、障がいがある人と話すことによって、どんな困りごと
があるのかを想像し、行動しましょう。

「共生社会」をつくるために、自分は何ができるのかをよく考え、
障がいをもつ人と積極的にコミュニケーションをとり、バリアを取り
除くための行動を起こしましょう。

文化芸術で人が輝く共生社会の実現

「みんなのステージ」が開催されました

10月26・27日に開催された第32回福祉ふれあいボランティアフェスティバル
の「みんなのステージ」は、「清流の国ぎふ」文化祭2024の基本方針の1つである
「文化芸術で人が輝く共生社会の実現」の趣旨に沿い、今回初めて開催されました。
「みんなのステージ」に出演した5つの障がい者団体の当日の様子と、各団体
の代表者の声を紹介합니다。

朗読劇団そらまめ

肢体不自由児者の
親子12人による絵本
や詩の朗読劇団で、
日頃は市内で開催
するイベントなどに
参加しており、今回
はオリジナルストーリー「ともだち～コロナを越えて～」
を披露しました。

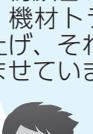


寸田さん

朗読だけではなく、自分たちの
考えも発表しています。皆さんに
共感してもらえる瞬間に接する
ことで、「わかってもらえた」と
いう実感を通してやりがいを感じ
ます。

ワーカウト大垣

生活介護事業所
あるワーカウト大垣の
利用者のうち、出演
希望者13人とスタッフ
による音楽ステージ。
出演メンバーは本番当日
が初顔合わせでした。



中村さん

機材トラブルもありながら、その時間も観客を盛り
上げ、それぞれの個性を発揮した自由な姿で観客を楽し
ませていました。
出演者がお互いに敬意を持って接し合えることで、距離が
縮まって信頼関係が構築できています。出演者が楽しく自分
を表現しているのを見ながら、皆さんも自分なりの解釈で
自分を許せるようになれば、寛容な社会を作れるのではと
思います。皆さんの毎日が少し緩んでくれたら嬉しいです。

あかね色のSORA



大垣特別支援学校高等部1年生の兒玉
茜音さんと母親の貴栄さんは、娘母デュオ
「あかね色のSORA」として活動して
います。

当日は、ピアノ連弾や、茜音さんの
ピアノやヘルマンハープのソロ演奏を
披露しました。茜音さんが楽しんで演奏
する姿に、会場は手拍子で大いに盛り
上がりました。



兒玉さん

聴きに来てくれた人たちに、
ほっとする時間を過ごして
もらえたらいいなと思って
演奏しています。
何事も諦めずにチャレンジ！
音楽のある人生は“最幸”です。

ハンドベルサークル奏音&music room SORA

小学生からシニアまで
3世代で活動する「ハンド
ベルサークル奏音」と、
音楽教室「music room
SORA」の希望者による
合同発表。



来場者は、18人のメンバ
ーで奏でるハンドベルとトーンチャイムの心地よい音色に
酔いしれていました。

発達や年齢に関係なく、いろいろな人
が「ませこそぜ」になって一緒に演奏
することがとても楽しいです。
多様性を尊重し合い、誰もが安心
して暮らせる社会にしたいです。



兒玉さん

Pure☆Dream Angels (岐阜ダウン症の会ピュア)

ダウン症の子ども達
自身の自己表現の場
として音楽教室や
ダンス教室などを
開催している、岐阜
ダウン症の会ピュアの
ダンスチーム「Pure☆
Dream Angels」は、躍動感あふれるヒップホップ
ダンスを披露して、観客を楽しませていました。



参加した子どもたちは、音楽好きで明るい子が
多いです。皆さんには障がいについて知って
もらって、みんな楽しく元気に活動している
ということを伝えたいです。



宮川さん